



SUCCESS STORY 株式会社KDC

PROSPER 6000C プレス パーソナライズDM分野での成功を支援

トランザクション印刷など既存ビジネスの成長はもちろん、新たに取り組むパーソナライズDM分野でも確かな戦力になると確信しPROSPER 6000C プレスを導入。現在は万全の2台体制でビジネスの成長をさらに加速。

日本の通信業界の発展と共に、トランザクション業務を大きく拡大し成長

電話料金のデータ入力業務を受託する企業として1970年に設立された株式会社KDCは、固定電話の家庭への普及、携帯電話の爆発的な拡大へと続く、日本の通信業界の発展と共に大きく成長してきた。創立から半世紀を迎えた現在、データ入力はもちろん、請求明細書の発行・印刷・発送、情報システム全般の開発・運用業務、携帯電話の物流業務、さらにはICT教育導入支援や販売促進支援など、通信業界を超えて幅広いビジネスを手がけている。大阪市西淀川区には本社・御幣島センター、東京と佐賀にも拠点を構え、500名近くの従業員を擁して、全国規模のビジネスを展開している。

同社の売上の半分は印刷事業によるもので、そのほとんどが年間1億枚を超えるトランザクション印刷である。代表取締役社長の伊倉 雅治氏

「5社7機種を調査しましたが、印刷品質、ランニングコスト、スピードの面でPROSPER 6000C プレスがナンバーワンの成績でした」

は、自社を取り巻く環境について危機感を持って次のように話している。「紙の請求明細書は今後WEBなどに置き換わってゆくでしょう。印刷枚数も減ってゆくので、これからはダイレクトメール分野、なかでも顧客一人ひとりの興味にあわせて内容をきめ細かく変えるパーソナライズDM分野での成長を模索しています」

同社の印刷設備はすべてデジタル印刷機のみ。「1億枚・1億通り」の可変印刷が可能なデジタル印刷設備と半世紀に及ぶ豊富な知識と経験が、パーソナルライズDM（以下PDM）という新しいビジネス分野でも存分に活用できると伊倉社長は確信している。



代表取締役社長 伊倉 雅治氏



印刷・情報ソリューション部 部長 濱口 昌登氏



印刷・情報ソリューション部 情報生産担当 兼 IT 推進担当部長 中谷 哲也氏





PROSPER 6000C プレスを2台体制で運用



プライマーコーターで様々なオフセット用紙に対応



2号機にはオートスライサーをインラインで接続

PROSPER 6000C プレスで PDM 分野に挑戦

同社が KODAK PROSPER 6000C プレスを初めて導入したのは 2019 年 11 月のこと。既存設備が老朽化し故障も増えたことがきっかけだったが、「それだけではない」と伊倉社長は語る。

「従来のトランザクション印刷だけではなく、新しい PDM 分野でも活躍できる全く新しい印刷設備を求めていました。このため、従来機と同等以上の品質とスピード、コストパフォーマンス、多種多様な用紙・ファイル形式への対応など厳しい条件を課して 5 社 7 機種のマシンを徹底的に調査しました。その結果、KODAK の PROSPER 6000C プレスが圧倒的に優位だと判断し導入を決めました」

なかでも「高い印刷品質」と「ランニングコストの低さ」、そして「毎分 300m という高速性」がナンバーワンの成績だったとのこと。さらにハードだけでなく「導入から安定運用までのサポートも期待以上で感謝している」と伊倉社長は KODAK を高く評価している。

KODAK 独自の Stream インク ジェット テクノロジーを高く評価

PROSPER 6000C プレスの社内評価は高く、印刷・情報ソリューション部（情報生産担当 兼 IT 推進担当部長）の中谷哲也氏は、次のように絶賛する。

「乾きにくいコート紙や 50g/m² 程度の薄紙でも安心して印刷でき、品質も極めて高いので非常に満足しています。これは KODAK 独自のコンティニユアス方式の Stream インク ジェット テクノロジーを採用したプリントヘッドによるものでしょう。常にインク滴を噴射するので、ノズルが乾くことがなく、その分、保湿剤の割合の少ないインクが使用できます。これにより、『インクが安価』『含有物が減少し

発色が良くなる』『用紙上での乾燥が早いので、着弾したインクの形状で速乾し、再現性が高くなる』のだと実感しています」 「クライアントの反応も良い」と語るのは印刷・情報ソリューション部 部長の濱口昌登氏である。「PDM の提案機会は多くありますが、印刷品質について特に指摘されることはありません。これは PROSPER 6000C プレスの品質が、今まで見慣れてきたオフセット印刷品質と変わらない、見劣りしないということで、非常に反応が良いのだと理解しています」

その一方で同業他社に印字サンプルを見せると「非常に驚かれ、協業の依頼を数多く受けるようになった」とのこと。印字品質と生産力の高さにおいて「PROSPER 6000C プレスは非常に魅力的な設備だ」と濱口部長も高く評価している。

PROSPER 6000C プレスの2台体制で新規事業の発展を目指す

こうした PROSPER 6000C プレスの優れた稼働実績を背景に、翌年には予定通り 2 号機を導入し、万全の生産体制を整えた。付帯設備として Contiweb 社製オートスライサー、太陽機械製バリアブルマシン、Harris & Bruno 社製コーターなども導入し、「前準備時間・納期の短縮」、「生産効率の向上」、「省人化・自動化」、「付加価値向上」、「用紙の多様性」、「他社との差別化」を一段と推し進めた。新規事

業である PDM 分野では、WEB 上で誰でも簡単にバリアブルDMが制作できる受発注システム「OCL（オクル）」を近日リリースする。デザインは、テンプレートと API 連携のデザインツールを使って簡単に作成可能。顧客毎に異なるデザインも指定でき、最長 2 営業日後の発送を約束する。顧客データのパーソナライズ化システム、カート落ち情報連携システムも準備中とのこと。さらに金額は V 折り / Z 折りの圧着ハガキが単価 99 円（郵便料金込み）の固定料金で、1 通から利用できるのも魅力である。バリアブル DM の発注から発送まですべての作業が WEB 上で完結する画期的なシステム「OCL」の実現に PROSPER 6000C プレスがあることは間違いはない。伊倉社長は「既存ビジネスの成長にも、そして新規事業での KDC の発展にも PROSPER 6000 がベストパートナーだと確信している」と力説する。KODAK もまた、競合他社にはない革新的な技術で、サポートしてゆくだらう。



株式会社 KDC

代表取締役社長：伊倉 雅治

本社：〒555-0013 大阪府大阪市西淀川区千舟 3 丁目 3-2

TEL.06-6195-0180

<https://www.kdc-jp.com>

■ OCL (オクル) システムのサイトはこちら▶

<https://lp.ocl-dm.com>



©2020 Kodak. Kodak, Prosper, および Kodak のロゴは、Kodak の商標です。



コダック ジャパン

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285 (営業代表)

大阪:050-3819-1266 名古屋:050-3819-1265 福岡:050-3819-1270

仙台:050-3819-1255 札幌:050-3819-1250

2021-02